

令和7年度

吉野川市立山瀬小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 主体的・対話的で深い学びを育む学習指導方法の改善
- ② 他者との関わりの中で伝え合う力を高める言語活動の充実

校長

森本 誠司

学力向上推進員

本多 謙一郎

【小中連携における共通の取組】

聞く力を育てるために、子供同士で伝え合う機会を確保する。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○国語・算数の基礎・基本的な知識については一定程度定着している。 ●話を聞こうとする態度は一定程度、身につけているが、まだ「聞く力」の定着は不十分である。 ●語彙力が不足しているため、聞いている内容を十分に理解できていない。 ●読解力、目的に応じ書くなどの国語の力は、まだ、十分でないところもある。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、文章を読んだり、書いたりすることができる。 ・学年に応じた「聞く力」を習得し、話や文章の要点を聞き取り、自分の言葉で話したり書いたりできる。	・学年に応じた「聞く力」の育成のため、興味を持って聞くような教材を用いて「聞く」ということを意識させる。 ・教材に出てくる言葉について、理解を深めるため、その言葉に関連する事項や映像に触れる機会を作る。 ・友達の意見に対し、質問できる機会を増やし、発言内容についての理解を深めさせる。 ・学力定着のため、学習内での振り返りのとき、自分の言葉で話したり書いたりさせる時間をとる。	・各学級の児童の「聞く」態度について、確認すると概ねできているようであるが、「聞き取れた内容」については、まだ、課題があると思われるため、話の内容が聞き取れているか、確認する機会を設ける。 ・単元ごとの振り返りを行う際、定型文を提示し、利用する機会を設ける。	・ペア・グループ学習を通し、「話す力」「聞く力」が向上してきた。 ・単元初めに、単語の意味調べや「言葉の宝箱」の活用を進めたことで、語彙力が向上してきている。 ・興味があることについては、しっかりと聞くことができているが、そうではない内容について、聞くことができていないことがある。	・今年度に引き続き、興味を持って聞くことができる教材の準備を行う。 ・「聞き取り」がしっかりとできているか、定期的にチェックする機会を設け、「聞く力」の習得度合いを確認する。 ・振り返りの仕方の定型文の型について、内容の検討を行っていく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○定型文のような型があれば、当てはめて表現ができる。絵や文で表現することには意欲的である。 ●適切な資料を選び、比較したり、要点をまとめたりして、自分の思いや考えを筋道を立てて表現するのが苦手である。	・自分の伝えたいことに関わる適切な資料を選び、資料どうしを比較したり、これまでの経験と照らし合わせたりしながら、考えをまとめることができる。 ・習得した語彙を活用し、自分の伝えたい事柄を、相手に伝わりやすい方法を選び、伝えることができる。	・発表の仕方や文章の書き方の文型や手引きを示し、各学年の課題に基づいた表現が行いやすいようにする。 ・一人一人に発表する機会、日記や短作文を書く機会を設ける。各教科等で、ホワイトボードやタブレットを活用し、意見を共有する。 ・まとめの学習の際に、これまでの学習で利用した資料などを生かし、比較したり、関係性を見いだしたりして文章にまとめる機会を作る。	・時間に合わせて、話の内容を考えたことができていなかったり、要点を押さえて話をするのができていなかったりすることがある。話す相手や場を意識して話ができるよう、モデルを提示したり、話す前の準備時間をしっかりと設けたりする。	・ICT機器を活用して、積極的に意見をまとめることができた。 ・うまく考えをまとめることができている児童の例を提示することで、それぞれの児童のまとめ方は向上している。	・各学年の状況に応じ、発表の仕方や発表する際に工夫できることについて、提示する。 ・他の学年に対し、発表する機会を設け、「話す相手を意識した取り組み」を意欲的に行えるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○興味があることについては、集中して取り組むことができる。 ●自分から進んで課題を見つけ、追求しようとする意欲が十分ではない。	・体験活動を通して、自ら見つけた課題や指導者が提示した課題に、粘り強く主体的に取り組む、学ぶ楽しさや喜びを感じるようになる。 ・活動内容や方法について、選択肢から、自分の興味関心に合ったものや目的に合ったものを選ぶことができる。	・児童が主体的に取り組むことができるように、授業導入時に、体験や動画を活用し、興味を引くような工夫をする。 また、学習の導入時に、いくつかの選択肢ができる項目を作り、児童自らが、考え、選べる機会を作る。 ・ICTなどを活用し、学習した内容を他学年に伝える機会を作り、他学年との関わりを通して、学習に取り組む意欲を高める。	・「修学旅行」に関係することなど、興味のあることについて、意欲的に取り組む児童の姿が見られた。また、他学年との関わりを通して学習に取り組む意欲が高まっていた。こうした興味関心を持つことができる取り組みを継続していく。	・実験方法や調べ学習のテーマを自分で選択させることで、学習の幅が広がり、児童も意欲的に取り組むことができた。 ・他学年との関わりを通して、学習に取り組む意欲が高まった。	・低・中・高の間の関わりだけでなく、様々な学年との交流の機会を作っていく。 ・今年度に引き続き、単元導入時に、選択できる場を設け、児童が興味関心を持つことができるようにする。